

2023 年度 評価結果報告書



小平市立あおぞら福祉センター

(多機能型事業所)

株式会社日本生活介護

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	利用者の豊かな社会生活に向けて、選択や意思決定を楽しみながら経験できる活動を提供している
	内容	利用者の社会参加の機会を増やし、意思決定の経験を積むことができるようにしている。週2回、利用者の好みや必要なものを購入するため、近隣の商店やコンビニエンスストアに出かける機会を設けている。利用者が自ら決定し、行動し、必要なことを認識することは、日常の支援だけでは得られない多くの経験を提供するだけでなく、新たな興味を引き出す貴重な体験の場となっている。また、今後は研修を通じて、職員の支援技術を向上させ、意思決定支援や活動を増やし、利用者のより豊かな社会生活に向けて取り組んでいきたいとしている。
2	タイトル	障害特性に寄り添いながら、前向きに過ごせるような声かけとともに、楽しく取り組める活動や訓練を提示している
	内容	職員は、利用者各自の障害特性を把握し、個々に必要な支援を行っている。利用者の意思を汲み取り、利用者の個性を尊重するよう、職員同士、チームで関わっている。利用者の行動を待つ姿勢や、タイミングの良い声かけに配慮している。拒否的な声掛けや、ネガティブな言葉にならないように言い回しを工夫し、優しい声で接している。定期的に言動の振り返りをして、職員の意識を高めている。また、利用者が楽しく活動できるよう、ニーズに合わせた計画を立案している。利用者は様々な活動や訓練に取り組み、明るい表情で過ごしている。
3	タイトル	様々な課題に対して、所長・副所長を中心に協議を重ね、職員間のコミュニケーションも重視し、より良い運営を目指している
	内容	事業所では、機能訓練事業の運営の方向性や、生活介護事業における利用者の重度化・家族の高齢化に対応した支援のあり方の検討、社会福祉協議会職員としての人材育成、地域福祉における役割の果たし方など、取り組みべき課題が生じている。所長や副所長を中心に、これらの課題について協議を進めており、利用者・家族、地域の関係者、職員らにとって、最善の結果につながるよう努めている。職員間のチームワークも重視し、コミュニケーションを充実させ、様々な意見や意向を取り入れながら、より良い事業所運営を目指している。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	正規職員のキャリアや育成方法について、及び嘱託職員やパートタイム職員のモチベーション向上について、検討していくことが期待される
	内容	社会福祉協議会が運営している事業所であるため、社協職員としての総合性と、専門的な支援スキルの両面を視野に入れながら、職員育成を図ることが課題となっている。正規職員は人事異動があるため、短期間で支援スキルの向上を図るとともに、嘱託職員やパートタイム職員をまとめながら、チームをマネジメントしていくことも求められている。今後、社協とも連携しながら、正規職員のキャリアや育成方法などについて検討を進めていくことが期待される。また、嘱託職員やパートタイム職員のモチベーション向上についても検討していくことが期待される。
2	タイトル	利用者の最新の状況を把握できるようなアセスメントシートの工夫に期待したい
	内容	事業所では、利用開始時に利用者のアセスメントを行っている。利用者の状況や身体機能などに変化があった際には、アセスメントを更新している。使用しているアセスメントシートは多くの項目を含み、利用者の状況を詳細に把握することができるが、同時に利用者の状況変化を把握するのが難しい側面もある。例えば、年度ごとに変化をまとめることや、手書きの欄を設けて適宜更新できるようにすることで、常に利用者の最新情報を共有し、利用者の状況を的確に理解し、適切な支援が提供されることに期待したい。
3	タイトル	宿泊行事への取り組みを再検討し、災害対策訓練の視点からも可能な範囲を見極めながら取り組むことに期待したい
	内容	コロナ禍以前は宿泊行事があり、保護者によっては再開を望んでいる方もいる。利用者の中には宿泊を経験している方、未経験の方があると推察できる。職員においても宿泊行事のあり方に戸惑うこともあるかもしれない。しかし、災害対策訓練の視点からも、少しずつ以前の試みに挑戦することが求められる。いきなりの宿泊体験とはいかないまでも、少人数制にわけ、夜間までの滞在にするなど、日常生活を延長し、利用者も職員も経験を広げる取り組みが必要と考えられる。どのようにすれば可能か、職員間で十分話し合い、実現することに期待したい。